

平成23年度

橋梁技術発表会及び講演会

— 鋼橋技術の進化と継承 —

参加費無料
定員200名
申込先着順

会場 東建ホール・丸の内(東建本社3F)
〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-1-33
TEL 052-232-8070

平成23年
日時 11月15日(火)
13:00~16:55

13:00~13:10 開会の辞 社団法人日本橋梁建設協会
副会長・専務理事 中島 威夫

13:10~13:40 橋建協報告
東日本大震災 被害調査報告
東日本大震災復興対策本部

申込方法
①Fax. 052-872-6464(裏面の用紙に記載)
②ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
の「技術発表会申し込み受け」まで(受付は9月下旬から)

申込期限
平成23年11月2日(水)

連絡先 社団法人 日本橋梁建設協会 中部事務所
〒456-8691 名古屋市中区熱田区三本松町1-1
日本車輛製造内 Tel. 052-872-6464

継続教育 土木学会認定CPD(継続教育)プログラム
全国土木施工管理技士会連合会認定CPDSプログラム

※東京地区は 10月14日(金) 銀座プロッサムホール
大阪地区は 10月28日(金) ドーンセンター
東北地区は 11月 8日(火) 仙台国際センター
九州地区は 11月25日(金) 福岡商工会議所 開催です。
申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

発表原稿のPPTはホームページに掲載しますので、
ご希望のかたはダウンロードするようお願いします。

第1部:技術発表会

13:40~14:20 1.支承部の損傷と対策事例
—経年劣化から地震による被害まで—
保全委員会 保全技術小委員会 村井 向一

14:20~15:00 2.東京ゲートブリッジの工事報告
—側径間トラスの大型起重機船3隻
相吊りによる大ブロック一括架設—
技術委員会 架設小委員会 小玉 芳文

15:00~15:10 休憩

**15:10~15:50 3.構造物の耐久性向上に関する
取り組みについて**
技術委員会 製作小委員会 小川 博基

第2部:特別講演会

15:50~16:50 1.鋼橋の疲労対策技術の現状と展望

名古屋大学 大学院
工学研究科 社会基盤工学専攻
教授 鎧石 和雄



16:50~16:55 閉会の辞 公益社団法人 土木学会 中部支部
支部長 伊藤 義人

アクセス



●名古屋市中地下鉄 桜通線・鶴舞線「丸の内」駅下車
1番出口より徒歩1分

1 支承部の損傷と対策事例

—経年劣化から地震による被害まで—

橋梁の支承は、上・下部構造の接点で上部構造の荷重を円滑に下部構造に伝え、構造物全体の機能を発揮させ、安全性を確保する上で重要な役割を果たすものです。しかし、常時、移動・回転を繰り返す過酷な部材である上に桁端の狭隘な箇所に位置し、また地震の影響を大きく受けるため、最も損傷例が多い箇所でもあります。

本報告では、橋梁の安全性の鍵を握る支承について、経年劣化から地震による被害まで、その損傷および対策事例を紹介します。

2 東京ゲートブリッジの工事報告

—側径間トラスの大型起重機船3隻相吊による大ブロック一括架設—

東京ゲートブリッジは東京湾の主航路である東京東航路上に位置し、その主橋梁部である3径間連続トラス・ボックス複合橋の側径間トラスは、日本最大の起重機船3隻相吊(4100t吊+3700t吊×2隻)により大ブロック一括架設されました。FC3隻相吊は過去に3例しかなく、16年前に行った実績しかありません。このFC3隻相吊による大ブロック一括架設の要領、GPSや加速度計等を用いてIT活用して構築した「FC3隻相吊作業管理システム」によるFC作業管理について報告します。

3 鋼構造物の耐久性向上に関する取り組みについて

鋼構造物の耐久性向上に対する要求が高いことおよび維持管理コストを低減することを目的として、(社)日本橋梁建設協会では、防食方法の耐久性に関する検討を行っている。鋼構造物(鋼製橋梁)に対する代表的な防食方法である塗装・金属溶射の耐久性検証を目的として、沖縄県(大宜味村)、三重県(亀山市)、石川県(金沢市)、秋田県(男鹿市)の暴露試験場において、継続的な試験・観察を行ってきた。本報告では、(社)日本橋梁建設協会 防食部会の耐久性に関する取り組みを紹介することとする。

特別講演会

1 鋼橋の疲労対策技術の現状と展望

—略歴—

1986年 東京工業大学工学部卒業
1988年 東京工業大学大学院修士課程修了
1988年 東日本旅客鉄道(株)
1990年 東京工業大学助手
1995年 東京工業大学講師
1997年 東京工業大学助教授
1997年 東京大学助教授
2000年 名古屋大学大学院助教授
2003年 名古屋大学大学院教授(現在に至る)

—研究分野—

鋼構造学
維持管理工学
破壊力学

—所属学会—

土木学会
日本鋼構造協会
溶接学会
日本コンクリート工学会
国際構造工学会

舘石 和雄

名古屋大学大学院
工学研究科
社会基盤工学専攻 教授

講演概要

疲労は鋼橋の耐久性を支配する一つの大きな損傷モードである。鉄道橋においては古くから疲労設計が導入され、道路橋においても平成14年から疲労に対する配慮が求められるようになった。しかし、それ以前に架橋された既設鋼橋を中心として、疲労損傷事例は後を絶たず、維持管理上の課題となっているのが現状である。疲労については古くから研究が行われているものの、未だよくわからない点も多く、現在においても様々な機関で精力的に研究が進められている。本講演では、疲労を防止するために必要となる技術、疲労が生じた場合の対策技術などについて、その現状と課題を整理するとともに、将来望まれる技術の動向について述べる。

FAX番号:052-872-6464

平成23年度

橋梁技術発表会

[中部地区]

参加申込書

所属

団体名

所属

氏名

役職

氏名

住所

〒

電話番号

FAX番号

E-mail

前回参加の有無 有 ・ 無